

特集◆◆◆◆「海技の伝承」 救命筏の基礎知識

◆ 船員の命を守る ◆③ 生き抜くために必要な「救命いかだ」の知識

洋上を航行する船舶には海難に遭遇した場合に備え、命を守るための救命艇や「救命いかだ」などが設備されており、万が一の不幸な事態を避けるため、救命いかだに関する知識は必要不可欠である

サバイバルで生還するための知識と技術

-航海の援助・航海速度-

全く風のない海上では、救命艇にしろ、ゴムボートにしろ、潮に乗って航海する。航海の方向は潮流の方向であり、その速度が5ノット以上に達しているところは海洋ではまれである。

風がある場合は、シーアンカーを入れておけば、相当の抵抗となり潮流のない場所では、相当に風が強くとゴムボートで2ノット以上になることはない。そして外力としては、潮流と、風との合成力がその合成方向に、救命艇やゴムボートを導く。もし、遭難位置がわかっていれば、進む方向がつかめる。

-航路-

比較的ラフな測器であっても、おおよその緯度を知ることができるが、正確なグリニッジ時刻がわからないと経度はわからない。したがって、一般には経度については分からない状態といえる。この場合には、私たちのいる同緯度における東・西・南・北それぞれの方向にどんな島があるかを知ることが、救命艇の自力航行に役立つし、ゴムボートの場合でも艇員に自信をあたえるものである。水温も、おおよその位置を見当づけるには役立つものである。そして、救命艇やゴムボートが集団である場合はそれぞれの知識を交換し、その他の連絡をすることも士気の鼓舞には有効である。

-方向の判定-

北半球（赤道と北緯65度の間）では北極星は常にま北から方位2度以内にある。そしてこの北極星から水平線に直角におろした線と水平線の交点が北である。南半球では南十字星の長軸の延長点とトリアウストレイルの北頂点から二星下した垂線との交点が南である。

太陽が東から出て西に入ること。正中時の方向が南北を示す指針になること。またオリオン星座から東西を判定することもできる。もし時計が動いている場合は、時計の時針を太陽の方向に向け、その方向と12時を示す方向との角度の2等分線をとれば南北がわかる。